

2009 夏 TCMN in 八王子・予定と抄録

8月9日（日）分科会

13:30~15:00 教員のための中医学セミナー

講師： 後藤学園中医学研究部長 兵頭明

自分が「わかったつもり」の内容を、学生に伝えることは簡単なことでしょうか。また自分が「わかっている」ことを、学生に伝えることは簡単なことでしょうか。学生のレベルにあわせることができますか。理解度にあわせて伝えることができますか。咀嚼して伝えることができますか。

次に、教えること・伝えることと、学生に問題解決能力をつけさせることは、同じでしょうか。教え、伝え、理解させ、同時に問題解決能力をつけさせるためには、どのような工夫が必要なのかを一緒に考えてみましょう。

鍼灸学校に入学してくる学生の大多数は、東洋医学にとっても興味をもっているのです。それなのに東洋医学を苦手科目にしているのは、誰のせいでしょうか。教育上どこに問題があるのでしょうか。まず教員自身が東洋医学を本当に好きなののでしょうか。苦手意識をもっていないのでしょうか。学生はしっかりと教員のそういったところを評価しているのですよ。

子供達だけでなく、多くの大人も含めて、彼らはなぜゲームに「はまる」のでしょうか。嫌いなゲームは恐らくやらないでしょうし、好きなゲームや面白そうなゲームには、チャレンジしたり、はまったりしますね。これはどうしてでしょうか。この問題を教育におきかえて一緒に考えてみましょう。

東洋医学教育において仮想空間でのゲーム（理論）と現実空間でのゲーム（実践）を一体化することはできないでしょうか。我々医療人の対象は、「健康な人、半健康な人、病んでいる人、苦しんでいる人、死にかけている人」です。こういった人たちを学生にイメージさせながら教育を行うためには、どのように工夫すればよいのでしょうか。

最後に、「教員のための中医学セミナー」は、必要なのでしょうか。私から何を学ぶつもりですか。私は必要がないと思っています。教員は教育のプロフェッショナルなのですから。必要なのは、「教員による中医学教育交流大会」なのではないでしょうか。